

博物館で熊本の水害被害にあった植物標本のレスキュー作業をしています！

令和2年7月豪雨で、熊本県の球磨川が氾濫し、人吉城歴史館（熊本県人吉市）で収蔵されていた植物標本が泥をかぶり水損したことから、全国の大学、博物館、研究機関で、冷蔵保管と洗浄作業を開始しています。

市博物館でも、2011年の東日本大震災で津波被害にあった陸前高田市立博物館の標本レスキューの経験を生かし、学芸員と植物の専門ボランティアグループである相模原植物調査会の有志が修復作業にあたっています。

このたび、修復作業を報道機関の皆様にご公開いたしますので、お知らせします。

日 時 8月8日（土） 10時30分～ 11時30分

8月18日（火） 10時30分～ 11時30分

10時20分に博物館1階、総合案内にお越しください。

場 所 相模原市立博物館 実習実験室

作業内容

洪水で泥をかぶった標本はずぶ濡れの状態のため、1枚ずつ水で丁寧に洗い、カビが発生しているものはアルコールでカビの増殖を抑え、温風乾燥機で乾燥する。

標本ラベルや、標本のかげらなど梱包されてきたすべてのものを1個たりとも逃さずに人吉市へお返しするため、作業は慎重に、作業者がお互い常に確認をとりながら行う。

備 考

作業標本の全数については、梱包しながらの作業であるため、全数は把握できていないが、150点程度と推測。

冷蔵していても標本の状態は悪化していく可能性があるため、状態がひどく再洗浄が必要なものを除き、8月中には作業完了予定。



慎重に開梱する相模原植物調査会会員



絵筆を使って慎重に水洗作業を行う

< 参考 >

人吉城歴史館（熊本県人吉市）の収蔵品について

地域の植物研究者であった前原勘次郎氏（1890-1975）採集の貴重な植物標本約3万3千点が収蔵

問い合わせ先
相模原市立博物館 秋山
電話 042-750-8030